

2010年5月19日

## ニプロ インドで医療機器生産 100億円投入、人工腎臓工場

ニプロはインドで医療機器を生産する。約100億円を投じて人工腎臓の工場を2012年に稼働させる。国内に比べ3~5割安く生産できる見込みで、低価格を武器にインド市場を開拓する。これに先立ち薬液ビンなどガラス製品の生産も近く始め、3~5年後のインドでの年間売上高を現在の数億円から100億円に引き上げる。経済成長に伴いインドの医療水準は向上しており、医療機器メーカーの進出が本格化してきた。

医療機器の世界市場は年20兆円程度とされ、日米欧の先進国が7~8割を占めるが、中国やインドなど新興国でも需要が急増している。インドではオリンパスが4月に営業拠点を新設し、内視鏡や外科分野の医療機器を販売開始。テルモは1999年に買収した現地の輸血向け血液バック製造会社から、アジアや欧州、中南米に輸出している。

以上

## ノーリツ鋼機 遠隔画像診断に参入 專業最大手VBを買収へ

写真処理機大手のノーリツ鋼機は遠隔画像診断事業に乗り出す。同事業の專業最大手でベンチャー企業のドクターネット（栃木県宇都宮市、佐藤俊彦社長）を6月までに買収する。買収額は50億円程度とみられる。ノーリツ鋼機は写真印刷技術を応用するほか、自社の海外拠点を活用して同サービスの海外展開を進める。医療関連分野に進出し収益基盤を強化する。

ドクターネット創業者で筆頭株主の佐藤氏が保有する同株式(45.4%分)を買収する方針。続いてSBIホールディングや三井物産など他の株主からも株式を取得し、6月末までに完全子会社化する予定だ。

遠隔画像診断は診療現場と離れた場所にいる専門医がレントゲンやコンピューター断層撮影装置(CT)の画像データを受け取って診断する。ドクターネットは専門医が不足する病院向けに遠隔診断のシステムを販売している。2009年12月期の売上高は、前の期に比べて3割増の21億円。

遠隔診断は新興国で需要が拡大している。ノーリツ鋼機は中国で診断サービスを始める計画。

以上

=日経新聞=